

人間ドックを受診される方へ

このたびは虎の門病院附属健康管理センター人間ドックをご利用いただき、ありがとうございます。

この小冊子は、検査を安全にお受けいただくために、必要な情報を説明しております。必ず事前にご一読いただき、もし受診前に必要な準備がございましたら、対応をお願いいたします。

お問い合わせがございましたら、以下までお願いいたします。

健康管理センター	TEL 03-3560-7777	FAX 03-3560-7775
平日 11 時 00 分～16 時 30 分（土日祝日、5 月 20 日開院記念日を除く）		

目次

新センター 交通のご案内（アクセス）	02
すぐにご確認ください	03
ご受診 3 日前までにご確認ください	07
ご受診前日のご案内	08
ご受診当日のご案内	09
結果報告と結果説明外来について	12
ご受診中の事故や、ご受診後の体調不良について	12
上部内視鏡検査についてのご連絡	13
上部消化管 X 線検査（バリウム検査）のご連絡	21

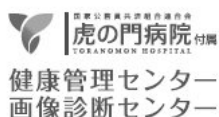


国家公務員共済組合連合会

虎の門病院
TORANOMON HOSPITAL

健康管理センター
画像診断センター

虎の門病院附属健康管理センターは、2017年10月に新設のビルに移転いたしました。



移転先のご案内



名称 虎の門病院附属健康管理センター・画像診断センター
所在地 東京都港区赤坂一丁目8番1号 赤坂インターシティAIR 5階
 近隣に「赤坂インターシティ」という名称のビルがございますので
 お間違えのないようお願いします。
 当センターは「赤坂インターシティAIR」5階でございます。



東京メトロ●銀座線●南北線：溜池山王駅 直結
 東京メトロ●千代田線●丸ノ内線：国会議事堂前駅 直結
 (溜池山王駅から地下通路にて接続)
 東京メトロ●日比谷線：神谷町駅 徒歩10分
 ※駐車場(有料)はございますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。



■人間ドック：健康管理センター
Tel. 03-3560-7777
 (平日 11:00~16:30)
 ■画像検査：画像診断センター
Tel. 03-3588-1111 (内線4858)

すぐにご確認ください

I. 同封内容のご確認

お送りした封筒には、以下のものが同封されています。足りないものがないか、念のため内容をご確認ください。

- 1) 日帰りドック申込書（確認書）—宛先が印刷された文書です
- 2) 人間ドックを受診される方へ（この文書です）
- 3) 検便容器（2本）
- 4) 受診当日のご案内
- 5) 質問票（6枚綴りのマークシート用紙）
- 6) 質問票について —5) についてのご説明
- 7) 内視鏡コースの場合、「上部消化管 または 下部消化管（大腸）の説明内容の確認と同意書」
- 8) その他、オプション検査についてのご案内などが同封されることがあります。

上記のうち、1)～6) およびコースによっては 7) または 8) が必要です。もし万一不足しているものがございましたら、下記まで至急ご連絡ください。

健康管理センター

TEL 03-3560-7777 FAX 03-3560-7775

平日 11時00分～16時30分（土日祝日、5月20日開院記念日を除く）

II. 安全に検査をお受けいただくために

人間ドックでは多数の検査をお受けいただきますが、検査によって一定の危険を伴うことがあります。例えば、採血によって、非常に稀ですが、神経を損傷することがあります。また、特に当日体調が不良の方、ご病気で治療中の方、あるいは治療後の方などは、当ドック担当医の判断により、検査の一部または全部をお受けいただけない場合があります。

当ドックの責任でなく、受診される方のご希望または状況で検査が実施されなかった場合、コース変更で対応できる上部消化管検査を除き、原則として検査中止に伴う料金の精算はいたしません。

当日の検査中止という事態を避けるために、以下の点にぜひご注意ください。

1. 主治医のいらっしゃる方は、事前にドック受診について主治医とご相談ください。病状によっては、実施が望ましくない検査があるかもしれませんので、主治医にご

確認願います。特に、次のような場合には重要です。

- 1) 循環器疾患で通院中
特にペースメーカー挿入中、不整脈治療中、心臓や大動脈の手術後、
抗血栓療法（血液をさらさらにする治療）施行中などの場合。
- 2) 腫瘍性疾患で通院中
手術後、化学療法中など
- 3) 血液疾患で通院中
- 4) 人工透析中

検査の安全性を高めるための努力を最大限に行っていますが、あらゆる医療行為は本質的に不確実であり様々な危険を伴います。意図せざる結果が生じる可能性をご理解下さい

2. 検査の制限

受診される方の条件により、実施できない検査があります。ご希望の検査がお受けいただけるよう、あらかじめご確認をお願いします。

- 1) 妊娠中、またはその可能性がある方
胃バリウム検査、胸部X線検査、婦人科検診および喀痰検査を除くすべてのオプション検査。ただし婦人科検診も行えない場合があります。
- 2) 体外式ペースメーカー、または植え込み式除細動器挿入中の方
MRI 検査(脳ドック・動脈硬化ドック)
胸部ヘリカル CT（セラシリーズペースメーカー挿入中の方）
乳房検診（マンモグラフィ検査が行えません）
- 3) 人工弁や血管のステント挿入中の方 人工関節植え込み後の方 動脈クリッピング術または血管内ステント挿入中の方
MRI 検査(脳ドック・動脈硬化ドック)が行えません。
- 4) 体重制限
120kg 以上 胃 X線検査がお受けいただけません。（装置の制限による）
90kg 以上 MRI 検査(脳ドック・動脈硬化ドック)をお受けいただけないことがあります。
80kg 以上 PET/CT 検査開始時刻が朝早い時刻に限定されます。
- 5) 消化管バリウム検査後 2 週間以内の方
骨密度検査 下部消化管内視鏡検査 PET-CT 検査（1 週間以内）
- 6) 消化管ポリープ切除後（ごくまれに生検後）
MRI 検査（脳ドック・動脈硬化ドック）
※止血のためのクリップが残存していないことを事前に腹部単純 X線検査により確認する必要があります。

- 7) 血液透析をお受けになっている方
胃のバリウム検査はお避けください。水分制限のため便秘等の危険が増えます（胃 X 線検診安全基準による）。
内視鏡コースで、生検（組織検査）を行った場合、その後の透析の際にヘパリンを変更可能か、あらかじめ透析施設にご確認願います。変更できない場合または不明の場合は、生検を行わないことがあります。
- 8) 豊胸術後、または乳房全摘術・再建術後の方
安全のため当センターではマンモグラフィー検査が行えません。
- 9) 水頭症に対するシャント手術（V-P シャントおよび V-A シャント）後の方
当センターではマンモグラフィー検査が行えません。なお L-P シャントの場合は実施できます。
- 10) 授乳中、または断乳してから 6 ヶ月以内の方
マンモグラフィー検査で正確な検査ができないためです。
- 11) 極度の閉所恐怖症の方
MRI 検査に支障が生じる可能性があります。
- 12) 血糖値が高い方（検査時 200mg/dL 以上）
糖尿病や食後などのため、検査時 200mg/dL 以上の場合、画像が正確に評価できないことがあります。
- 13) その他
オプション検査によっては、上記以外の制限条件があります。それぞれの検査のご案内をご覧ください。

3. 総合健診結果報告書に結果の記入を希望されない場合

事実と異なるご報告は、致しかねます。

まれにご受診の方から、特定の検査結果を報告しないよう要望される場合があります。実際の結果と異なるご報告、および実施した検査を実施しなかったようにご報告することは、いずれも文書偽造に問われるおそれがあり、当センターではお引き受けいたしかねます。

報告を希望されない検査については、あらかじめお申し出いただくことで、お受けにならないことが可能です。この場合当該検査の報告欄に『検査せず』などにご報告します。この取り扱いを希望される場合は、事務上の都合により、ドック受診日 1 週間前までにお電話でご連絡ください。

ただし個人ではなく、団体でご契約されている場合、お約束の検査を行わないと当センターが契約不履行に問われるおそれがあります。検査の一部キャンセルをご希望の場合、団体で契約されている方については、事前に団体にご了承いただき、団体を通じてのご連絡をお願いいたします。

なお受診される方のご都合による検査の一部キャンセルについては、料金の精算は致しません。

4. ドック当日の虎の門病院本院のご受診について

健康管理センターと病院は別の施設です。人間ドック当日午前中は、病院の外来受診はできません。また病院で指示されている採血などの検査は、ドック受診の際に同時に行うことはできません。ドックご受診と同日の、本院ご受診等を予定されていた方は、日程にご注意いただきますようお願いいたします。

受診 3 日前までにご確認ください

1. 検査の制限

□ 便秘がちの方

便採取については、受診時に 2 本の便検体をご持参いただきます。便の採取日は、受診前日、および当日朝を原則としていますが、便秘がちの方は、受診日の 4 日前から 2 回分の便を採取いただいても結構です。その場合できるだけ別の日の便を採取してください。採取した便は冷蔵庫保存をお勧めします。またどうしても同一日の採便となる場合でも、別の時刻の便が望ましいです。

□ 女性の方へ

生理中は尿検査や便検査の結果に影響する可能性があります。検体は後日ご提出いただくか、受診日の変更をご検討ください。(但し、検体提出が後日になった場合は、結果報告書に記載されない場合がございますので、予めご了承ください。) 受診日の変更は、予約専用電話 03-3560-7777 (11:00~16:30) です。なお尿検査や便検査のキャンセルは可能ですが、それによる料金の変更は致しません。

2. 転倒の防止

ドック受診中においても、転倒の恐れはあります。ドックでは健診着とスリッパを用意いたしておりますが、履き慣れた靴のほうが安全な場合もありますので、お持ちいただいても結構です。特に次のような場合に、転倒されやすいとされています。

- 1) 過去に転倒したことがある方
- 2) バランス障害 (めまい、ふらつき)
- 3) 上・下肢筋力低下
- 4) 視力低下
- 5) 歩行障害 (杖使用など)

3. 受診時感染症に罹患されている方、発熱 (38℃以上) の方

ご本人の体調により、検査の一部、または全部を実施できない場合があります。また場合によっては、他の受診者に感染させる危険があります。ドック受診を延期していただき、感染症の治療を優先してください。なお健康管理センターでは、治療や、人間ドック以外の検査を行う設備がありません。

※インフルエンザは発症後 1 週間かつ平熱に戻ってから 2 日、ノロウイルスは嘔吐下痢症状がおさまってから 3 日以上過ぎるまで、人間ドックはご受診いただけません。

4. オプション大腸内視鏡検査 (下部消化管検査) をお受けいただく方

検査 3 日前からお食事にご注意ください。また便秘がちで事前に追加の下剤をお渡ししている方は、便通の様子により、適宜内服してください。

受診前日のご案内

1. 検便採取

受診日前日、および受診日の朝の2回の便を採取してください。

ただし、便秘がちの方は、受診日の4日前から2回分の便を採取いただいても結構です。その場合できるだけ別日の便を採取してください。採取した便は冷蔵庫保存をお勧めします。またどうしても同一日の採便となる場合でも、別の時刻の便が望ましいです。

受診日までに採取できなかった場合は、受診日を含め3営業日以内に直接人間ドック受付にお持ちいただくと、総合検査結果報告書に反映できます。受付時間は平日8:00～15:00です。検査は1本でも行えます。

(女性の方へ)

生理中は便検査の結果に影響する可能性があります。検体は後日ご提出いただくか、受診日の変更をご検討ください。(但し、検体提出が後日になった場合は、結果報告書に記載されない場合がございますので、予めご了承ください。)予約専用電話は03-3560-7777(11:00～16:30)です。なお便検査のキャンセルは可能ですが、それによる料金の変更は致しません。

2. 受診前日の食事と飲水

□ 食事

受診前日の夕食は午後8時までに軽く済ませ、それ以降は召し上がらずに睡眠を十分おとりください。

□ 飲水

前日の水分摂取については、水・さ湯については特に制限はありません。市販の飲料の中には、ビタミンCなど尿検査などの結果に影響する成分を含む場合がございますので、ご注意ください。アルコール類はお控えください。

3. ご受診の際の同伴について

原則としてドックご受診中は、当センター職員のお付き添いは致しかねます。基本的に各検査は、受診者ご自身にセンター内を移動してお受けいただきます。お一人での行動や、日本語でのコミュニケーションが困難な方は、必ずご同伴の方と一緒にお願いします。

受診当日のご案内

1. 受診当日の朝食および飲水

□ 朝食

受診日、食事は検査終了までお摂りいただけません。

□ 飲水

＜胃内視鏡コース、胃検査なしコースを受診される方＞

基本的に飲水制限はありません。お出かけまでにご自由に飲水していただいて結構です。ただし水またはさ湯に限ります。

＜胃バリウムコースを受診される方＞

検査時胃内のバリウムが薄まると、検査精度に影響することがあります。飲水はドック予約時刻の2時間前まで、150ml以下の水またはさ湯に限ってください。また飲水後に右側を下にしてしばらく横になる、あるいは右下と左下とを交互に繰り返す姿勢をお取りいただくと、胃内要物の腸への排出に効果があります。

2. 糖尿病のお薬について

受診当日朝の糖尿病のお薬は、内服なさらないようご注意ください。検査中血糖が下がりすぎると危険です。

3. 糖尿病以外のお薬について

ドック受診当日朝にお薬を内服するかどうかについては、基本的には主治医の指示を受けてください。お薬によっては休薬すると危険なものもあります。一般的に降圧薬や心臓のお薬、喘息のお薬については、原則として内服してください。内服はなるべく起床直後に、水またはさ湯でお願いします。

4. 検便採取

受診日の朝、2回目の便を採取してください。

※ただし、便秘がちの方は、受診日の4日前から2回分の便を採取いただいても結構です。その場合できるだけ別日の便を採取してください。採取した便は冷蔵庫保存をお勧めします。またどうしても同一日の採便となる場合でも、可能であれば別の時刻の便が望ましいです。

※受診日までに採取できなかった場合、受診日を含め 3 営業日以内に、直接人間ドック受付にお持ちいただくと、総合検査結果報告書に反映できます。受付時間は平日 8:00～15:00 です。検査は 1 本でも行えます。

(女性の方へ)

生理中は便検査の結果に影響する可能性があります。検体は後日ご提出いただくか、受診日の変更をご検討ください。(但し、検体提出が後日になった場合は、結果報告書に記載されない場合がございますので、予めご了承ください。)予約専用電話は 03-3560-7777 (11:00～16:30) です。なお便検査のキャンセルは可能ですが、それによる料金の変更は致しません。なお尿検査のみの日連変更は受け付けておりません。

5. お化粧品について

お化粧品をされる方は、薄めをお願いします。診察や検査に支障が出る場合があります。

6. ドック受付後に採尿がありますが、それまでに無理に排尿を我慢なさる必要はございません。お帰りの受付をなさるまで、採尿は可能です。

7. ドック受付時間の制限

検査実施の都合により、ご来院が 10:30 を過ぎますと、人間ドックが自動的にキャンセルとなります。またお申し込みいただいているオプション検査も、同時にすべてキャンセルとなります。ご希望の方はご予約の取り直しをお願いいたします。

8. クレジットカードによるお支払いについて

クレジットカードご利用は、自動精算機のための扱いになります。4けたの暗証番号が必要です。通常店舗などで行われる、サインによる扱いはできませんのでご注意ください。またダイナースおよびアメリカンエクスプレスのカードについては、一部ご使用いただけないものがございます。

9. 当日結果説明について

ドック当日の午後、結果が出ている検査（血液検査・尿検査など）をご説明しています。無料ですが、ご予約が必要です。ご希望の方はドック受付の際にお申し付けください。

10. 結果報告と結果説明外来について

すべての健診結果は 2～3 週後に総合健診結果報告書として発送します。また結果の説明、ドックで発見された異常についての再検査や追加検査、虎の門病

院専門外来へのご紹介などを目的として、結果説明外来を行っております。ご予約方法は、総合健診結果報告書に同封してお送りします。

1 1. 検査中の安全—転倒の防止について

ドック受診中においても、転倒の恐れはあります。ドックでは健診着とスリッパを用意いたしておりますが、『ご受診3日目のご注意』転倒の防止の項をご参考にしていただき、場合によってはかかとのある靴をご用意いただいた方が安全かもしれません。また万一転倒して、胸部や頭部を打撲した可能性のある方は、思いがけず骨折などを受傷されている可能性があります。必ずお申し出ください。

1 2. ドック受診日の昼食について

当センターではお食事をご提供いたしておりません。ご受診当日、午後からの検査をご予約いただいている方には、提携店でお使いいただけるお食事券（1,000円）をお渡ししています。いったん外出し、お食事をお取りください。ただし午後予定された検査の種類によっては、お食事をお取りいただけない場合がございます。

結果報告と結果説明外来について

1. 健診結果のご報告

人間ドックのすべての検査結果は、原則として2～3週後に総合健診結果報告書として発送します。

2. 結果説明外来

ドック結果の説明、ドックで発見された異常に関する再検査や追加検査、または虎の門病院専門外来へのご紹介をご希望の方に対して、結果説明外来を行っています。場所は虎の門病院本院、または健康管理センターで、ご予約が必要です。ご希望の方は、報告書到着後、健康管理センターにお電話ください。ご予約方法は、総合健診結果報告書に同封してお送りします。

3. ドック画像データのご提供

ドックで検査された画像データをご希望の方は、有料でご提供できます。前述の問い合わせ先までご連絡ください。ディスク代および手数料として1,200円（税別）を頂戴します。完成まで1週間程度お時間をいただきます。

受診中の事故や、受診後の体調不良について

当センターでは安全に十分注意するようにはしておりますが、すべての検査には一定のリスクを伴い、検査による副作用が絶対ないとは言えません。

万一ドックご受診後に体調不良がございましたら、当健康管理センター、あるいは虎の門病院にご連絡ください。

虎の門病院附属健康管理センター

TEL 03-3560-7777

(平日 16:30 まで)

虎の門病院 本院 救急処置室

TEL 03-3588-1111 (代) (内線 3915)

(平日 16:30 以降 および休日)

なお、健康管理センターではご治療の設備・体制がございません。医療機関ご受診の場合は、虎の門病院、またはお近くの医療機関のご受診をお願いいたします。

上部内視鏡検査についてのご連絡

内視鏡検査は「有効性評価に基づく胃癌検診ガイドライン 2014 年版」において、胃バリウム検査に加え、現在対策型検診（自治体・職域で行う検診）として推奨されております。

当センターでの上部消化管内視鏡検査においては、検査前に文書にて検査の内容や危険性などに関して説明し、その上で同意書にご署名をいただいております。

これは、検査に際して事前に十分ご理解の上でご同意いただきたいとの観点（いわゆるインフォームド・コンセント（説明と同意））からの措置です。

内視鏡コースを選択された受診者各位におかれましては、同意書への署名が必要となりますので、下記の通りご案内いたします。

次ページ以降（P13～P19）を必ずご熟読ください。その上で検査に同意された方は『同意書』にご署名ください。ご署名をしていただいた『同意書』は受診の際にご持参ください。

内視鏡検査の同意に関して医師にご質問がありましたら、人間ドックの内科診察の際に承ります。そこでご納得いただければその際にご署名ください。

※内視鏡検査を受けないと決断された場合は、事前に下記連絡先(当センター受付)までその旨ご一報ください。よろしく願いいたします。

TEL 03-3560-7777（11時00分～16時30分）

虎の門病院附属健康管理センター

統括センター長 荒瀬 康司

検査当日の体調について

以下に示す症状や診断がある場合には、安全のため上部内視鏡検査を延期または中止する必要があります。なお、延期の場合は上部内視鏡検査のみ延期することはできませんので、予めご了承ください。

【上部内視鏡検査を延期または中止した方がよい場合】

- ・ 高い熱がある。
- ・ 強いのどの痛みがある。
- ・ 嘔吐が続いている。
- ・ 水様性下痢が出ている。
- ・ インフルエンザと診断されて1週間以内である。
- ・ 極端に血圧が高い。
- ・ 抜歯後一週間以内である。

その他、人間ドックの内科診察で上部内視鏡検査をおこなうのに適当ではない状態だと判断される場合は、検査を受けられないことがありますのでご了承ください。

重 要

※必ずお読みください

内視鏡検査の際、精密検査として組織検査（生検）を行うことがあります。生検とは悪性かどうか等を判断するために、顕微鏡検査用に食道や胃などの組織の小片を採取することです。

- (1) **血液をサラサラにする薬剤を内服中の方は、検査前から休薬しないと生検は出来ません**。生検後に出血が止まらない危険があるためです。必要な休薬期間は薬剤によって異なります。(P15 参照)

※主治医の指示で **薬剤を休薬することが困難な場合、生検は実施できません**。

内視鏡検査を予約されましたら、**検査前後に薬剤を休薬してよいかどうかを主治医とご相談ください。その際、添付の休薬期間一覧表(P15 参照)を主治医に必ずご提示ください**。休薬が可能であれば、休薬してご来院いただけますと、生検が必要な病変があった場合、その場で検査ができます。

- (2) 生検をした場合は、基本料金以外の追加料金がかかります。

生検手技および顕微鏡検査は保険診療の対象となります。料金は、生検の個数や健康保険の自己負担率によって異なります。およそ4000円から1万円程度です。

- (3) まれですが、**生検後3日間は生検部位から出血することがあります(およそ0.1%)**。

生検をした場合は、出血の危険があるため、**検査当日を含む3日以内の航空機の利用は避けてください**。航空機利用時、万一出血した場合、緊急対応が難しいと考えられるためです。また、**検査当日を含む3日間は、禁酒と食事制限が必要となります**。飲酒をすると出血する可能性が高くなるためです。飲酒が避けられない場合は、生検を実施できません。

内視鏡検査時に生検する必要があると判断されたが、休薬期間が足りない場合や、ご自身の都合で当日の生検を見合わせた場合は、後日あらためて内視鏡検査および生検を行うことをおすすめします。その際は保険診療となり、当センターでは実施できませんので、あらかじめご了承ください。

以上の事柄をよくお考えになって、生検を行うことに同意するかどうかは、ご自身の判断でお決めください。

内視鏡検査前に休薬を必要とする内服薬の休薬期間一覧

薬品名 一般名 (代表的商品名 **)	休薬期間*
抗血栓剤	
アスピリン (バイアスピリン)	3日
チクロピジン (パナルジン)	5日
クロピドグレル (プラビックス)	5日
アスピリンとチクロピジンないしクロピドグレル併用	5日
アスピリンとプラスグレル (エフィエント) 併用	7日
シロスタゾール (プレタール)	1日
リマプロスト (プロレナール) (オパルモン)	1日
サルボグレラート (アンプラーグ)	1日
ベラプロスト (ドルナー、ケアロードLA)	1日
イコサペント酸エチル (エパデールS) (ロトリガ)	1日
ジピリダモール (ペルサンチン(L)、アンギナール)	1日

ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキユース、リクシアナを内服している方は、当センターでは生検はできません。そのまま、内服を続けてください。

*休薬期間は検査当日を含みませんので、検査当日も内服しないようにご注意ください。

**これ以外にも出血が止まりにくくなる薬はありますので、不明な場合は主治医にお尋ねください。

自己判断での薬剤中止は、危険な場合があります。

休薬をされる場合は、その可否を判断できる担当医の許可を必ず得てください。

例：バイアスピリンを内服している方は、検査当日を含まない3日間の休薬が必要です。

検査日【4月8日】の場合

4/5	4/6	4/7	4/8
1日目	2日目	3日目	検査当日
休薬	休薬	休薬	休薬
—			→

上部消化管内視鏡検査の説明書

1. 上部内視鏡検査はどのようにおこなわれるのでしょうか？

- (1) 胃内部の粘液を洗い流すための液体を飲みます。
- (2) 咽頭（のどの奥）に麻酔をします。ゼリー状の麻酔薬を口にいれ、のどの奥に数分間ためておきます。
- (3) 消化管の蠕動運動を抑える薬を注射します。
- (4) 検査台では、左を下にして横になります。ここで検査医がスプレーでのどの麻酔を追加します。そのあと内視鏡を口からのどを通して食道に挿入します。経鼻の場合は、鼻から挿入します。内視鏡が入っても必ず呼吸はできますからあわてないでください。検査中、唾液は口の中に溜めず、出してください。
- (5) 食道、胃、十二指腸の観察を行い、必要があれば色素を散布して詳細な観察や生検（顕微鏡検査用に組織の小片を採取すること）を行います。
- (6) 内視鏡抜去後、口の中に溜まっている唾液は飲み込まずに全部出してください。咽頭麻酔が30分～1時間効いていますので、むせることがあります。

なお、鎮静剤を希望される場合は、別途料金がおおよそ8000円程度発生いたします。当日、看護師の問診、あるいは医師の診察の際、ご希望をお申し付けください。詳細については、お問い合わせください。

2. 検査のためにどんな準備が必要でしょうか？

安全で正確な検査を受けるには、胃の中を空にしておく必要があります。前日の夕食は午後8時までには済ませ、それ以降は何も食べずに睡眠を十分にとってください。（ただし水・さ湯は予約時間直前まで飲んでいただいても構いません。）「受診のご案内」（P7～P8）もご参照ください。

胃切除後等の方で、前回の内視鏡検査のときに胃内に食物が残っていたと指摘された方は、より強く食事制限をしないといけない場合がありますので、主治医とよく相談してください。

3. 毎日内服している薬はどうしたらよいのでしょうか？

内視鏡検査に支障をきたす薬がありますので事前に主治医とよく相談してください。

- ・ 血液をサラサラにする薬剤を内服中の方は、検査前から休薬しないと生検はできません。休薬についてはP14「重要」とその添付文書(P15)を主治医に提示し、ご相談、ご確認ください。
- ・ ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナを内服中の方については、当センターでは **生検をすることができません**。そのまま内服を

続けてください。

- ・ インスリン、経口血糖下降薬（絶食中に低血糖を起こしやすくなる）は、検査当日は中止してください。
- ・ 降圧剤、心臓や喘息の薬、主治医から内視鏡当日の朝も内服するように指示された薬については、朝の分は起床時に 150ml 位の水で内服してください。内服した薬については看護師や検査医にお申し出ください。

4. 他に申し出ておくことはありますか？

- ・ キシロカインショックの既往がある。（歯科の麻酔で呼吸困難に陥ったり、血圧が下がってショックになったという経歴がある場合は可能性が高いです）
- ・ その他薬に対してアレルギーがある。（例：造影剤、ヨード剤、アルコール消毒綿）
- ・ 現在感染症にかかっている。
- ・ 前立腺肥大、緑内障、不整脈、心臓の病気（不整脈や狭心症など）の病気がある。または、疑いがある。また、過去に治療したことがある。

5. 上部内視鏡検査にはどんな危険性がありますか？

- ・ 咽頭麻酔に使用するキシロカインでショックを起こすことがあります（0.001%未満）。
- ・ 蠕動運動を抑える薬（ブチルスコポラミン）の注射でショックを起こすことがあります（0.001%未満）。
- ・ 鎮静剤を使用された場合は、鎮静剤に対する反応が強く出てしまう（血圧低下、呼吸不全等）可能性があります（0.001%未満）。
- ・ 上部消化管の壁が裂けて穴が開くことがあります。外科的手術を必要とする場合があります（0.01%未満）。
- ・ 生検をした部位や、検査中の嘔吐反射で裂けた部位から出血することがあります（およそ 0.1%）。ほとんど内視鏡下に止血できますが、まれに輸血や外科手術が必要になります（0.01%未満）。
- ・ 消化管の形の問題や技術的な問題のために検査が完了できないことがあります（およそ 0.5%未満）。
- ・ 病気が見落とされる可能性があります（およそ 0.1%）。
- ・ 誤嚥が生じて肺炎を起こすことがあります。
- ・ 心臓・肺・脳疾患の合併症が出る可能性があります（不整脈、血圧低下、狭心症、心筋梗塞、呼吸不全、脳血管障害、健忘等：およそ 0.01～0.1%）。

以上から非常に稀ですが、死亡したり（0.001%未満）、重度の後遺障害を残したり（およそ 0.01%）する可能性があります。

（頻度は日本消化器内視鏡学会の報告や当施設での経験等による数値です。）

6. 検査後はどうなりますか？

- ・ 検査医が簡単に結果を説明いたしますが、生検した場合や治療の必要のある場合の説明等は結果説明外来で行いますので、必ず受診してください。
- ・ 内視鏡が触れていたため喉がヒリヒリして少量出血したり、検査中に空気を入れたため腹部がはっていることがあります。程度の強い場合は落ち着くまで内視鏡室で経過をみます。
- ・ 検査後1時間程でのどの麻酔がきれますので、通常通り食事をしてかまいません。ただ、個人差がありますので様子を見ながら数時間かけていつもの状態に戻ると良いでしょう。
- ・ 鎮静剤を使用された場合は、70歳以上の方には帰宅までどなたかに付き添ってもらうことを強くお勧めします。鎮静剤使用後24時間は、自動車等の運転、機械の操作、重要な法的書類への署名、小さな子供の世話、仕事への復帰および飲酒等は事故につながるため、行わないでください。

7. 以下の場合はご連絡ください。

- ・ 全身的に調子が悪い（高熱が出る、頭痛、寒気、ふらふらする、息が切れる等）。
- ・ のど、胸、胃に鋭い痛みがでる。水・食物が飲み込めない。嘔吐をする。

このような場合は、当健康管理センターあるいは虎の門病院にご連絡ください。

虎の門病院附属健康管理センター

TEL 03-3560-7777

(平日 16:30 まで)

虎の門病院 本院 救急処置室

TEL 03-3588-1111 (代) (内線 3915)

(平日 16:30 以降 および休日)

内視鏡検査種類のご案内

—（「通常径」、「細径」、および「経鼻」内視鏡）—

人間ドックで、内視鏡コースを受診される方は、「通常径」内視鏡、「細径」内視鏡、「経鼻」内視鏡のいずれかを選択できるようになっております。特にご希望がない場合は、通常の病院診療で使用される画質が良く操作性に優れた「通常径」内視鏡を用います。

「通常径」内視鏡は、性能的に優れていますが、外径が 9mm 強とやや太いため、内視鏡挿入時の違和感を覚えやすく、人によっては嘔吐反射が強く出て検査時のつらさの一因になります。「細径」内視鏡は外径が約 6mm 弱で、画質、操作性では「通常径」内視鏡に劣るため、検査精度が低下してきわめて微細な病変は描出できない可能性があります。検査に要する時間は通常径内視鏡に比べて 1.5 倍から 2 倍かかります。細いため挿入時の違和感が少なく、嘔吐反射は通常径内視鏡より軽減されます。同じ「細径」内視鏡を用いた「経鼻」内視鏡では舌根に触れにくいため嘔吐反射はさらに軽減されますが、一部の方では麻酔時や検査中に鼻の痛みや、検査後に鼻出血、鼻汁がでることがあります。

より楽な検査でスクリーニングを望まれる方は「細径」内視鏡で、診断精度を重視される方は「通常径」内視鏡での検査をお受けいただくのがよいと思われれます。また、今まで経口内視鏡を受けた経験があるが、のどの反射のため検査がつかつたという方は、「経鼻」内視鏡がよいと思われれます。

ただし、下記に該当する場合は、「経鼻」内視鏡をお受けできませんので経口での内視鏡検査をお選びください。

- ・ 現在、耳鼻科で鼻・副鼻腔疾患の治療中の方
- ・ 頻繁に鼻出血する方
- ・ 抗血栓薬を服用中で休薬期間が満たない方
- ・ 麻酔薬のアレルギーがある方
- ・ 肝硬変や血液疾患のため、出血しやすい方

また、「経鼻」内視鏡をご希望されても、鼻の通路が狭いなどで、経鼻内視鏡検査ができない場合は、経口で検査させていただきますのでご了承ください。

なお食道・胃手術後の方は「細径」、「経鼻」内視鏡では観察困難なことが多いため、「通常径」内視鏡の選択をお願いいたします。

内視鏡の種類を選択に関してご希望のある方は、受診当日の医師診察の際にお申し出ください。ただし検査枠を超えた場合、ご希望に添えないことがありますのでご了承ください。

上部消化管 X 線検査（バリウム検査）のご連絡

この文書は、ご予約いただいた人間ドック「基本コース」に含まれる、上部消化管 X 線検査（バリウム検査）についてご説明したものです。

上部消化管 X 線検査（バリウム検査）は、我が国で 50 年以上の実績を持ち、胃癌死亡率の減少効果が証明されており、現在対策型検診（自治体・職域などで行う検診）として「有効性評価に基づく胃癌検診ガイドライン 2014 年版」において推奨されている方法です。ただしどの医療行為でもそうですが、この上部消化管 X 線検査（バリウム検査）にも検査に伴うリスクが存在します。次ページ以降のご説明をよくお読みいただき、当検査をお受けになるかどうかをご検討ください。検査についてご質問がありましたら、ドックの内科診察の際に承ります。

もし上部消化管 X 線検査（バリウム検査）をおやめになる場合、『胃検査なしコース』または『胃内視鏡コース』にご変更いただくことができます。この場合なるべく早くドック受付にご連絡ください。

健康管理センター

TEL 03-3560-7777 FAX 03-3560-7775

平日 11 時 00 分～16 時 30 分（土日祝日、5 月 20 日開院記念日を除く）

ただしコース変更について、特に「胃内視鏡コース」への変更は、当日の「胃内視鏡コース」予約枠に余裕がある場合のみ承ります。予約枠に余裕がない場合、まことに申し訳ございませんが、受診日の変更をお願い致します。

虎の門病院附属健康管理センター

センター長 荒瀬康司

上部消化管 X線検査（バリウム検査）に伴うリスク（危険性）のご説明

1) 誤嚥

食道から胃へと飲み込むはずのバリウムが、誤って気管へ入ってしまうことです。バリウム検査を受けた方の 0.01%に起こるとされていますが、特に 65 歳以上では男性 0.17%、女性 0.08%と、より頻度が高いと報告されています。バリウムを誤嚥した場合、通常は無症状ですが、誤嚥が起きた人の 1 割に発熱が見られたとの報告があります。またバリウムが肺まで達した場合、以後胸部の X線検査で遺残バリウムによる陰影が残ることがあります。

2) 便秘・腸閉塞・腸管穿孔

バリウムを服用すると便秘しやすく（特に女性）、このため検査後には緩下剤を服用していただきます。非常にまれな合併症として、腸閉塞（0.00005%）および腸管穿孔一穴があくこと（0.00014%）が知られており、検査後に強い腹痛が生じた場合には、速やかな医療機関受診が必要です。

3) アレルギー症状

まれ（0.0013%）ですが、バリウム製剤の成分により、アレルギー症状が報告されています。代表的な症状は、発疹・咳・呼吸困難などです。バリウム製剤によってアレルギー症状を起こされたことがある方は、バリウム検査をお受けいただけません。一般的に、喘息・アトピー、他の薬剤アレルギーをお持ちの方では、バリウムに限らず薬剤アレルギーがいくらか起こりやすいとされています。

4) 放射線被曝

上部消化管 X線検査の被曝量は、0.6～4.9mSv とされ、成人の健康に影響するほどではありません。ただし胎児は放射線の影響を強く受けるため、妊娠されている方や、妊娠が否定できない方はバリウム検査を行っておりません。

I. バリウム検査を実施しない条件

当センターでは以下の場合において、上部消化管X線検査(バリウム検査)を実施致しません。『胃内視鏡コース』または『胃検査なしコース』をご利用ください。コース変更については、20 ページ目をご覧ください。

1. **妊娠**中の方、あるいは妊娠が否定できない方
2. バリウム造影剤内服で**アレルギー**症状を起こしたことがある方
3. 過去に**胃切除術**をお受けになった方
4. 体重 **120kg** 以上の方(装置の制限による)

II. バリウム検査を慎重にご検討いただくべき状況

前ページにご説明した合併症が起こりやすい条件が、調査により明らかになっています。以下に挙げる場合に該当される方は、通常より合併症リスクが高い可能性または十分な検査が行えない可能性があるため、バリウム検査をお受けになるかどうか、ご検討をお願いします。また主治医のいらっしゃる方は、バリウム検査実施について、あらかじめご相談いただくようお願いいたします。

1. 誤嚥を起こしやすい条件

- ご年配の方
- 脳梗塞・パーキンソン病など、神経疾患をお持ちの方
- 過去に誤嚥された経験のある方(バリウム以外の誤嚥も含む)
- 咽頭(のど)の手術をなさった方
- 検査当日、咳や吐き気のある方

2. 便秘などを起こしやすい条件

- 腸閉塞(イレウス)と診断されたことがある方、
- 胃腸の疾患でご治療中の方(主治医にご相談ください)
- 最近1年以内に腹部(特に胃腸)の手術をなさった方
- 水分制限中の方(心臓病・腎臓病など)
- 普段から便秘されている方
- 現在便秘されている方

3. 検査中に台の上で体の回転を十分行いきにくい方
—精密な検査が行えないことがあります。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○神経疾患○整形外科的疾患など |
|--|

4. その他 当センターでは下記の場合にはバリウム検査をお勧めしていません。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○年齢40歳未満の方（検査のメリットが相対的に低いため）○年齢を問わず1年以内に上部消化管X線検査（バリウム検査）か注腸検査をお受けになった方 |
|--|

上記に該当される方は、『胃内視鏡コース』または『胃検査なしコース』をご検討ください。コース変更については、22ページ目をご覧ください。